

第 36 回 安田女子大学・安田女子短期大学 エッセイコンクール

自由部門

優良賞「平和を叫ぶこと」

教育学部 児童教育学科 1 年 1 組 増本夏海

私は平和を叫びたい。あなたに、私の平和の叫びを聴いてほしい。そして、一緒に考えてほしい、私たちには、何ができるか。

平和とは何か。

私が考える平和とは、まだない。明確に定義することはできないが、その過程には、核兵器廃絶があると考えている。きっと、あなたが考える平和の過程、あるいは最後にも、核兵器廃絶が含まれている。私もあなたも含んだ、世界中の多くの人が平和を望み、平和を祈っている。しかし、核兵器がなくなることはない。貧困や差別、紛争が絶えることはない。その理由の一つに、ほとんどの人が平和を望むだけで何の発言も行動も起こさないことが含まれている、と、私は考えた。

自分が考えていることも、自分が感じたことも、言動に示さなくては、誰にも伝えることができない。ましてや、核兵器を廃絶し、平和を実現するなど、何者かの言動なしでは何も始まらない。たとえ、すべての人が同じ平和を願っていてもこの事実は変わらない。ほとんどの人は、平和を望み、戦争や殺人を嫌い、弱きものに手を貸すべきであると思いながら、何の言動も起こさない。しかし、一般的な学生、社会人は、毎日が忙しくて、自分の生活に精一杯の人が多くいる。そのように多忙な現代人が、平和のためにできることを、私には思いつくことができなかった。それでも私は、思うだけで何もしないのは、言い訳のように感じて自分を許せなかった。そこで私は、平和を叫ぶために、平和に少しでも近づくために、被爆体験伝承者になると決めた。被爆体験伝承者とは、自らの被爆体験等を伝える「被爆体験証言者」の被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、それを伝える人である。

今年の夏から、被爆体験伝承者研修生として、市の平和推進課の方々が主催する研修に参加することにした。被爆者の方の被爆体験を拝聴したり、情報資料室や図書館で書籍を読んだり、長崎の原爆資料館を訪れ広島と比較したり、同じ被爆体験伝承者を目指す方とお話したりして、知識を多く学んだ。しかし、学んでいく中で、私自身の行動が不合理であるように感じ始めた。日本は唯一の被爆国であり、広島は世界で最初に核兵器を使われた地である。戦争はいけない。数えきれない人の命を、夢を、生活を、奪って踏みにじって、もう二度と同じことを繰り返してはいけない、非人道的な兵器を所持してはいけない、と頭の中で繰り返しているうちに、身勝手な事を言っているように感じた。日本も、数え切れない人の命を、夢を、生活を、奪って踏みにじった。それなのに、終戦のきっかけとなった原子爆弾の被害だけをとりあげて、自国のしてきたことは棚に上げて、今核兵器を保持している国々を批判して、被害者ぶっているように感じられた。世界には、ホロコーストなどの悲惨な事件は、

多く存在する。それらの出来事に詳しくない私が、原子爆弾のことを、多くの人に知ってほしいからと伝えようとするのは身勝手なのではないか、と、平和を叫ぶ権利について考えた。他国に非人道的な行為をしてきた日本が、他国の被害に詳しくない私が、どうして平和を叫ぶことができるのか。

そこで私は、平和を叫ぶ前に、平和を叫ぶための正統性について自問した。その答えも、被爆者の方のお話の中で見つけることができた。

被爆者の方のほとんどが、「アメリカを憎んでいるわけではない」と、仰った。中には当時、よくも僕の家族を、よくも私の友達を、と、アメリカをひどく憎んでいた方もいた。しかし、戦争中はそうするしかなかった。日本も敵国を攻撃していたように、人を殺すことが正しく、称えられる行為であった。そのため被爆者の方々は、近年、原子爆弾について学んでいくうちに、アメリカではなく、原子爆弾が嫌いと思うようになったそう。そこに私は、平和を叫ぶための権利と、意義を見つけた。

私は、当時の原子爆弾について、より多くの知識を持ってほしいから大勢の人に話を聴いてほしいわけではない。核兵器を保持している国々を、真っ向から批判したいわけでもない。平和を叫ぶということはそういうことではない。私は、原子爆弾をはじめとする核兵器の悲惨さを伝え、もう二度と、同じことを繰り返さないでほしいだけだ。核兵器の恐ろしさを知り、恒久平和の大切さを、いつも覚えておいてほしいだけだ。恐ろしいのは原子爆弾で、憎いのは原子爆弾で、その原子爆弾を肯定することができる戦争が恐ろしい。被爆国を、ほかに作らないために、また、他国を傷つける、加害国を作らないために、戦争を繰り返してはならない。このメッセージを伝えるために、私は平和を叫びたい。

私は、ニュース番組で、メディアの方が他県の学生に、「8月6日は何の日か知っていますか？」とインタビューし、その学生が「え？ハムの日ですか？」と、答えているのを目にしたことがある。更にここ数日で、広島東洋カープが勝利したある試合で、相手側のサポーターが、「ケロカス」という野次を飛ばしたことを取り上げた記事を見た。「ケロカス」とは、原子爆弾によるケロイドの「ケロ」と、罵倒語の「カス」に由来する蔑称である。私は、これらの事実を知り、心底悔しく思った。同じ日本人ですら、原子爆弾のことをここまで軽く捉えるほど、その悲惨さは伝わっていないのか、と、悔しく思った。

私は、私の平和の叫びを聴いてくださった方に、思うだけでは平和にならないから、みんなも被爆体験伝承者を目指しましょう、などと、伝えたいわけではない。ただ、原子爆弾の事実を受け止めてほしい。そして、あなたも、多くの人に広めてほしい。身の回りの数人でも良い。ただし最後に必ず、多くの人に広めてほしい、と、あなたからも伝えてほしい。原子爆弾を知り、平和を望む人の分母を増やすことで、きっと、行動を起こそうとしてくれる人も増える。

最後に、平和を叫ぶことは、決して同情してもらうためにすることではない。ただ、多くの人に知ってもらって、平和を望む人が増え、平和を叫ぶ人が増え、その連鎖が止まることなく後世に続いていってほしい。それだけを願い、私は平和を世界中に叫びたい。